

**March 30, 1973**  
**Record of Conversation between Foreign Minister  
Ohira and Chen Chu**

**Citation:**

"Record of Conversation between Foreign Minister Ohira and Chen Chu", March 30, 1973, Wilson Center Digital Archive, 2004-204, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Contributed by Yutaka Kanda.  
<https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/118839>

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan

大臣  
事務次官  
外務審議官

官房長  
官房総務参事

儀典長  
儀典官

秘密用  
中江参事

秘  
除  
期  
限  
情報公開室  
22

別紙  
（同）  
（同）

大平外務大臣・陳楚時節全権  
大使との全記録

48.3.30

申口課

陳楚中華人民共和門駐白時節全権

大使の江塔様三等書記官を帯同し、3月29

日午後1時より1時30分まで着任のあいな

のため大平外務大臣を表敬訪問した。

この際の会談概要は次の通り。

まず日本側から、力石儀典長、口宏

申口課長及び藤井大臣秘書官が同会談

GA-6  
に出席した。

省外務省  
中 申

大臣： 大使閣下を東京にお迎えの事お喜びの事  
にうれしく思ふ。閣下の着任を歓迎する。

大使： 大臣の御言葉に感謝する。昨日は上海  
からの直行便に乗りましたが、二時向余りの飛行で  
東京に到着した。

大臣： 上海からは二時向余りの飛行出陣の  
か。飛行状況は順調であったか。

大使： 概ね順調であった。

大臣： 時に大使は何人の子供を連れておられ  
るのか。

大使： 子供は二人ですが現在いづれも12歳に  
達している。

大使： 着任早々大平大臣閣下に <sup>着任の挨拶のため</sup> 表敬訪問  
が有機會を得るにうれしく思っている。北京を

出發する際、周恩来總理、姬嶋昭外相より、田中總理、大平外務大臣、二階堂宮房長

官に対し特に早くお伝えする旨の命令を受けた  
ので傳達申し上げます。

大臣：お言葉に感謝する。私自身として  
日本政府としても大使閣下を東京にお迎えす

と同時に光栄に思

ふるところに思っている。私としては、田中  
両氏の変わらない信頼、理解の上に立ち、今後

田中両氏の関係を安定した強固な基礎の上  
に置くようにしたくこの面では協力出来るもの

と考えている。

現在に於て一つ申請は思っているに

とは、陳大使閣下<sup>御</sup>の着任以前に中国大使館  
の物的施設の整備が出来なかった事である。

与後 陳大使閣下の御意向をうかがい、最善の努力を怠らぬ。出来る限り早い時期に大

使閣下及び大使館長の皆さんが落ちついた生活が出来るとより望まいたい。

大使： 現在のことよりホテル住みに落着かたに思ふに不便であるが、大使館についての白

本領の努力に感謝している。北京での日本大使館についても完全に満足できる施設を希望

している訳ではない。北京の日本大使館事務所は一つの建物より成っているのではなく、二つの建物

を併下になっているものである。

大臣： あが方大使館建物につき早速御取

慮願に感謝している。今朝の閣議の外務委員会で、北京のあが方大使館建物について中

日側が上述に提供してくれてゐるに拘らず、中  
 日大使館の物的施設が完備に於ては、日本側  
 はたゞし「な」ではないが、と云つて野望の義  
 量が比較された。これに於て、<sup>物理的</sup> 日中双  
 方<sup>の</sup> 物理的<sup>的</sup> 交渉と信賴がめれば、この問題は早く  
 解決する<sup>と信じてゐる</sup> と答へてゐた。

大使： この問題は両国の友好関係に影響  
 はないと、我々はこの問題が大平大  
 陸の改善に早く解決することを信じてい  
 る。今次赴任に際し、先刻申上げた通  
 り、上海の筈に沖繩、鹿児島<sup>を経</sup> 羽  
 田に到着した。この向の旅程は約2時間半  
 の間、中には日本の向は誠に一夜帯木の向概  
 程の2倍「隣邦」であることを改めて強く感じ

た。日中両国の友好関係の一大の発展のため  
 に日本の友人達と今後更に長期の努力を行  
 ねてゆきたいと考へてゐる。

昭和九年九月大平大臣閣下は田中総理と

共に訪中する平沢東主席、岡田総理、姫岡  
 飛外相と中門政学を指導者と会われ日中

交正常化へと話合はせられ、両国の外交関  
 係が始まつた。従つて日中外交正常化における

大平大臣閣下の貢献は非<sup>常</sup>に重要なものがあ  
 り、今次北京を出發する際にも岡田総理

姫岡飛外相と、特に是れが彼等との自  
 身が指示を受けた事と次々と致す。

大臣：私が<sup>行つた</sup>たは二ヶ月二ヶ月當然の二ヶ月に  
 致す、何の誇りも事柄に非ずと考へてゐる。

兵衛の遺言を聞き、悲願している次第  
である。

申し上げたい

第一、陣大使閣下及び申口大使館員の  
皆様方が当地即ち勸業、静養、生活をして

下さる様、願っているといふべきである。我々には  
皆さんの氣にされる事が起るやうな注意を

しているが、大使閣下も即ち此の通り、我が国  
は自由開放体制の国柄であり、国内には種々

な分子がいる。これを進行するものもある。申口側  
の氣にされるべきであるが、先づ知らぬやうに日本政

府には二の事な出奔事が起るやうな極力  
注意するが、二の事な出奔事が皆無といふべき

約束申上げたい<sup>べきは</sup>難し。しかし、かかる出奔事は  
皆無といふ事は、自由開放体制の一環の



支那のべき代償をいふべきであるかも知れない  
 とおかしこの尺のな出果事が発生した場合も案の  
 意に介さぬ態度をとられる事の望みがある。この  
 出果事をいへ出かす運中も案のいふ高貴をいへ  
 といふ事もある。時機 自分自身も存在を世  
 間に誇る事が必要がある。それならば"自分自身  
 の敵をいへ"といふことになる。私もこの運中  
 は学問をいへるの"いへ"といふことになる。

大使: 大臣閣下への御礼に感謝する。中には  
 大使館側からいへる事も大平大臣閣下と日本  
 政府の配慮の下に確かな"いへ"出果事もいへ  
 がる。本年9日の日中共同声明により両国間の  
 平和友好をいへる大方向が決められた。これに  
 ついで日中両国人民の友好関係を発展強化

とされている。日中両国間に相互に<sup>等</sup>邊が望ましい  
場合も、平和友好という大方向が定まってい

る以上、話し合ひにより合理的<sup>等</sup>解決が得られ  
るものと思ふ。私は日中両国の善隣友好のため

努力してゆきたい。このための御協力を仰ぎたい。  
昨年9月の日交正常化により、日中両国関係建上

り新しい頁が開かれたが、各自はこれを愛せしめ  
<sup>結果</sup>として中日両国の友好の新しい頁を書き続け

てゆきたい。何分各自は日本に初めこそ右次第の  
あり、何か不備な裏が及ばば指摘して頂き、御

敬示願ふ所。

大臣：(日中関係については)是等御指摘

のありに通りである。留意の事、話し合  
ひを通じて、中日友好の大精神に基づいて、各種

の問題を一つ一つ手堅く解決してゆきたいと  
思ふ。陳大使閣下と共に仕事が出来れば

と云ふのが私の希望である。

大使： 与の午前中、有力な儀典委員の<sup>信</sup>~~任~~任

就奉呈儀典関係事項につき種々話を  
した。信任就奉呈については種々世話

な事を思ふ。二、三、莫大平文臣閣下にも御座  
る。 (関係書類を提出。)

大臣： 信任就奉呈式~~日~~日取りは決  
定したか？ (5)

大使： <sup>15</sup>日。大臣閣下に種々御多  
事な御座る。日取りはこれに失礼な  
と云ふ。

大臣： 御多事な感謝する。御在勤中の御  
健康と任務の円満達成を祈る。

大使： お言葉に感謝です。大臣閣下中身の  
お言葉に「先」の「益」の「さかん」の表現

通り、御健康を願うの何よりです。

大臣： どう致し様に願う方も白くならずして、

に。大使閣下の言葉響かすも白くもかなく~~す~~<sup>ま</sup>  
是れ何よりです。此は失礼です。

大使： 失礼です。